

ヨリミチ部 オープンピッチフィードバックレポート

Be By Tea

AI×ハーブで整える、新しい職場のウェルビーイング体験 (井本貴明)

日付：2025 年 11 月 14 日

作成者：一般社団法人 Creative Guild ギルドマスター 渋谷 健

注意書き：本レポートは ChatGPT を用いて編集しています。

エグゼクティブサマリー

Be By Tea は AI とミャンマー産オーガニックハーブを組み合わせた法人向けサブスクリプション型ハーブティーサービスであり、働く人々のリラックスやコミュニケーションを支援することを狙っています。ピッチでは、個人の心身の不調や職場のギスギスした空気をハーブティーと AI の力で整えるというビジョンが提示され、スターターキットによりすぐに導入できる点や、八種類のハーブを AI が好みに合わせてブレンドする独自体験が強調されました[1][2]。参加者の印象は「飲んでみたい」「AI と対話してブレンドするのが面白い」「温かい場づくりに役立ちそう」と好意的なものが多く、サービスの可能性として福利厚生・コミュニティ形成・ギフト利用などが挙げられました。一方で、デモ時間が遅い、片付けの手間、プライバシーへの不安といった課題や、ハーブの種類・効能への説明不足が指摘されました。また、AI に個人情報を入力することへの慎重さやハーブの副作用リスク[3]、AI 依存やデータの偏りへの懸念[4]も課題として浮上しました。根源的な問題は、現代の働き方が生むストレスや孤立を企業内の福利厚生に頼って解決しようとする構図にあり、ビジネスとしての「ウェルビーイング」をどう位置付けるかが問われています。今後は、研究に裏付けられたハーブの効果を周知し、プライバシーを守る AI 設計や持続可能なサプライチェーンを整備しながら、楽しさを起点にしたコミュニティ形成を図ることが求められます。

目次

1. ピッチ内容の要約
2. ピッチに対する参加者の率直な印象
3. ピッチから参加者が感じ取った将来への期待・可能性
4. ピッチを踏まえて取り組むべき課題・改善点
5. 批判的な視点で深掘りした根源的問題
6. 根源的問題から未来に進むために考慮すべき要素
7. 今後求められてくるアクション・ロードマップ
8. “楽しい”から始まる未来づくりとして踏み出す具体的なファーストステップ
9. 全体総評と応援メッセージ

1. ピッチ内容の要約

本ピッチでは、株式会社フットボール・テクノロジーズが提供する **Be By Tea** (<https://be-by-tea.jp/>) のサービス概要が紹介されました。サービスはミャンマー産 100%オーガニックハーブ八種類と専用 Web ページを組み合わせたサブスク립ション型ハーブティーで、スターターキットには保存容器・抽出器具・マグカップなどが含まれ、職場ですぐに設置して利用できます[5]。利用者は Web 上で AI と会話しながらその日の体調や気分を入力すると、AI が最適なブレンド比率を提案し、気分や悩みに合わせた“世界に一つのブレンド”を楽しむことができます[1]。八種類のハーブ（ローゼル・ペパーミント・レモンバーム・ジンジャー・カレンデュラ・エキナセア・レモングラス・バタフライピー）はそれぞれリラックスや免疫サポートなどの効能があり[6]、サービスは自律神経の調整やリフレッシュ、会話のきっかけづくりを目的にしています。法人向けの福利厚生として 2025 年 10 月 1 日に提供開始され、月額 8,000～24,000 円で定期配送される仕組みです[7]。ピッチ内では代表者の妹が登壇し、サービスが解決したい二つの課題——個人の心身の悩みと、人が集まる場のギスギスした雰囲気——を説明し、AI との対話によってその場がすっきりした空間に変わる様子を描きました。また、デモン

ストレーションの案内や美容院・病院での利用例も紹介され、参加者に体験を促しました。

2. ピッチに対する参加者の率直な印象

参加者の第一印象は総じて好意的でした。コメントには「飲んでみたい」「ピンクのハーブティーが美味しかった」「寒い季節に温かいハーブティーは最高」といった素直な感想が並び、**味わいや香り**への満足が感じられました。一方で「AIと会話してブレンドするのは面白い」「客観的におすすめされるので受け入れやすい」といった声も多く、AIによるパーソナライズが新鮮さや安心感につながっていることが伺えました。美容院やオフィス以外にも「病院の待合室」「コミュニティスペース」など幅広い場面で使ってみたいとの意見が挙がり、利用シーンへの想像が膨らんでいます。また、会場の雰囲気がフランクで、「働く人の対話のきっかけがAIとハーブティーという発想が素敵」というコメントから、サービスが**コミュニケーションを促進する装置**として認知されつつあることがわかります。一方で、「20:30からのデモは遅い」「片付けが面倒」といった実用面の指摘や、「プライバシーの安全性が不安」という懸念もあり、便利さと安心感のバランスに課題が見えてきました。このように印象は概ねポジティブながら、実際の導入に際して改善すべきポイントが垣間見えました。

3. ピッチから参加者が感じ取った将来への期待・可能性

参加者は Be By Tea の将来性について多様な可能性を感じ取っていました。まず、「ギフトに良さそう」「美容院だけでなく病院やヨガスクール、ブライダルでも活用できる」といった声から、**サービスの汎用性**への期待が高いことがわかります。職場や施設に限らずコミュニティスペースや自宅でも利用できる点は、サービスが生活の中に自然と入り込む余地を示しています。さらに、「AIとの会話がメタ認知のきっかけになるかもしれない」「自分では気付かないことに触れ、新しい発見につながる」といった意見は、AIが単なるレコメンド以上の内省支援ツールとして機能し得ることを示唆しています。これはAIを活用したパーソナライズド・ウェルネスの潮流とも一致し、AIが企業の福利厚生を個別化し、従業員の

生産性向上とコスト削減に寄与すると指摘する専門家の見解[8]とも重なります。また、「一人ひとりに合わせたブレンドは話題になり、組み合わせと比率で無限の発見がありそう」といったコメントから、ブレンド体験そのものが交流や学びの場となることが期待されています。こうした期待は、ウェルビーイングを支える新たなプラットフォームとしてサービスが社会的価値を持つ可能性を示しています。

4. ピッチを踏まえて取り組むべき課題・改善点

好意的な反応の裏には、解決すべき具体的な課題も浮かび上がりました。まず、ハーブティーの安全性と効能に関する情報提供です。ハーブは一般に安全とされるものの、妊娠中に避けたい種類や薬との相互作用が報告されています[3]。利用者が安心して選べるよう、各ハーブの効果や注意点を明示し、医師との相談を促す仕組みが必要です。次に、AIに入力されるデータのプライバシー保護とアルゴリズムの透明性です。AIが福利厚生プログラムを個別化することで効果が高まる一方、データの偏りや過度な依存、プライバシーのリスクが指摘されています[4]。ユーザーが安心して利用できるよう、データ最小化や匿名化、第三者によるガバナンス体制を整備する必要があります。さらに、導入・運用面では「片付けが大変」「デモの時間が遅い」といったフィードバックがあり、オフィスでの運用負荷を減らす工夫や体験時間の柔軟な設定が求められます。ハーブの種類や効能を知らない参加者もいたため、AIとの対話だけでなく説明書やワークショップを通じて学べるサポートが必要です。また、価格設定や配送方法について具体的な質問が寄せられたことから、サブスクリプションの仕組みや配送料、スキップオプションの分かりやすい説明も重要になります[9]。

5. 批判的な視点で深掘りした根源的問題

表面的な課題の背後には、現代社会の構造的な問題が横たわっています。一つは、働く人々のストレスや孤立が慢性化している点です。企業にとって自律神経の乱れによる集中力低下が重大な課題となっており、コロナ禍を経て出社の意味が問われる中、オフィスに小さなご褒美を用意することで従業員を引き止めようとす

る動きがある[10]。しかし、根本的な原因は長時間労働や人間関係の摩擦、社会保障の不足といった構造にあり、ハーブティーが一時的な癒やしを提供するだけでは解決しない。二つ目は、ウェルビーイングの商業化による格差拡大である。法人向けサービスは福利厚生を充実させる一方、利用できるのは資金力のある企業や個人であり、心身のケアがサービス化することで経済力による健康格差が広がる懸念がある。三つ目は、AI の倫理とデータ依存の問題である。AI を活用した福利厚生は個別化を実現するが、プライバシー保護やアルゴリズムの偏りについて十分な議論が行われていない[11]。人間的な対話や多様な価値観を尊重することが不可欠であり、データに基づく評価が過度に働く環境は新たなストレスを生む可能性がある。最後に、原料供給のサステナビリティである。Be By Tea ではボーダレスファームの無農薬栽培により品質管理が徹底され、農薬や化学肥料を使わずにハーブを栽培し残留農薬検査も行っている[12]。しかし、ミャンマーの社会情勢や労働環境に配慮し、公平な取引が継続されているか確認する必要がある。供給元の農家に負担を押しつけず、地球環境への負荷を最小化する取り組みを企業がどこまで担保できるかが問われる。

6. 根源的問題から未来に進むために考慮すべき要素

上記の根源的課題を踏まえ、未来に向けて以下の要素を検討する必要があります。第一に、**科学的根拠と教育**です。ハーブティーが心身に与える影響については、カモミール茶が末梢皮膚温の上昇や心拍数の低下、自律神経の副交感神経優位への移行を示した研究[13]や、バレリアンとレモンバームを含むハーブティーが睡眠の質を向上させたパイロットスタディ[14]などが報告されています。一方で、ハーブの効能や安全性を示すエビデンスは限定的であり[15]、過剰摂取や薬との相互作用に注意する必要があります[3]。サービス提供側は、科学的知見を分かりやすく伝え、利用者が自己判断できる環境を整えるべきです。第二に、**倫理的な AI とデータガバナンス**です。AI を福利厚生に用いる際には、AI ガバナンス委員会を設置し、データ最小化や匿名化、アルゴリズムの検証を行うことが推奨されています[11]。ユーザーの心理的状态を扱う際は特に慎重な設計が必要であり、AI は補助的な存在として人間との対話をサポートする役割にとどめることが望ましい。第三に、**持続可能で公正なサプライチェーン**です。ボーダレスファームは無農薬栽培

と厳格な品質管理を徹底している[12]ものの、社会的・環境的な影響を継続的に監査し、生産者への公正な報酬や労働環境の向上を支援する必要があります。第四に、**コミュニティと文化的包摂**です。AI とハーブティーはコミュニケーションを促進する道具として機能しますが、利用者の文化背景や価値観を尊重したアプローチが不可欠です。地域の食文化や季節行事に合わせたブレンドを提供する、対話のファシリテーターが参加者の感情を受け止めるなど、人間中心の設計が求められます。最後に、**ウェルビーイングの公共性**です。福利厚生サービスを一部企業の特権にせず、地域コミュニティや教育機関にも広げることで、健康格差の是正に寄与できます。公共施設や図書館での無料体験会、学校でのワークショップなど、ウェルビーイングを公共財として提供する視点が必要です。

7. 今後求められてくるアクション・ロードマップ

Be By Tea の発展に向けたロードマップは、短期・中期・長期の三つの時間軸で考えることができます。短期的には、利用者の声を反映したプロダクト改善が急務です。具体的には、ハーブの効能と注意点をまとめたガイドの提供、AI チャットの説明内容の充実、デモや体験会の時間帯の多様化、片付けが簡単になるディスプレイや廃棄物管理の改善などが挙げられます。また、データプライバシーポリシーをわかりやすく提示し、ユーザーの同意管理を徹底します。中期的には、AI のアルゴリズムをアップデートし、利用者の嗜好やフィードバックを学習して推奨精度を向上させるとともに、ハーブの種類を季節や文化に応じて拡充し、カモミールなど科学的エビデンスがあるハーブも取り入れます。企業や医療機関、教育機関との連携を進め、福利厚生サービスとしての導入モデルを確立します。また、サプライチェーンの透明性を高めるため、生産地訪問レポートや公正な取引の証明書を公開し、CSR コミュニケーションを強化します。長期的には、ウェアラブルデバイスやメンタルヘルスアプリとの連携によって、睡眠やストレスデータをもとに AI がブレンドを提案する統合型プラットフォームを構築し、従業員の健康指標とパフォーマンス向上を一体的に管理できる体制を目指します。さらに、地域コミュニティ向けのソーシャルビジネスとして展開し、収益の一部を生産地への還元や社会貢献に回すなど、持続可能なビジネスモデルを構築します。

8. “楽しい”から始まる未来づくりとして踏み出す具体的なファーストステップ

ピッチのテーマである「楽しいから始まる未来づくり」を実現するためには、利用者が自然と笑顔になる場面を創出することが重要です。第一歩として、社内外で「ハーブティーブレンドワークショップ」を開催し、AIと一緒に好みのブレンドを作る体験を共有すると良いでしょう。参加者は自分の体調や気分を言語化し、AIが提案したブレンドを試飲しながら感想を語り合います。ワークショップでは、各ハーブの香りや味を直接確かめ、文化的なエピソードや産地の話を交えながら、自然と会話が広がります。こうした体験は、働く人々の内省と相互理解を促し、仕事の枠を超えた**コミュニティ形成**につながります。また、完成したオリジナルブレンドに名前を付け、社内SNSやコミュニティで紹介することで、楽しみながら参加意識を高めることができます。参加者からのフィードバックをAIに反映させれば、サービス自体も進化し、ユーザーが共創者として関われる循環が生まれます。さらに、ハーブの空き瓶を再利用したアートコンテストや農家への応援メッセージ企画など、サステナビリティと楽しさを組み合わせた取り組みも提案できます。

9. 全体総評と応援メッセージ

Be By Tea のピッチは、AIとハーブを組み合わせるウェルビーイングを支援するというユニークな発想を示し、多くの参加者から**共感**と**期待**を集めました。サービスは職場の小さなご褒美としてリラックスや対話を促し、個々の気分寄り添う新しい福利厚生を提示しています。一方で、ハーブの科学的根拠やAIのプライバシー保護、サステナブルな供給体制といった課題に真摯に向き合い、根源的な問題への理解を深める必要があります。これらの課題を丁寧に解決しながら、楽しさを中心に据えたコミュニティを育てることができれば、Be By Tea は心身の健康と社会的なつながりの両方を育むプラットフォームへと成長するでしょう。創業者の思い描く「空間の余白」や「世界に一つのブレンド」というビジョンは、私たちが日々の暮らしで見落としがちな内面の声に耳を澄ますきっかけを与えて

くれます。今後の発展を心から応援するとともに、利用者や生産者、関係者が一体となってこのプロジェクトを育て上げていくことを願っています。

[1][7][10] 社員の自律神経を整える。AI×ハーブティーの福利厚生サービス『Be By Tea』 始動 | 株式会社フットボール・テクノロジーズのプレスリリース

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000002.000170644.html>

[2][5][6][9] Be By Tea

<https://landing.be-by-tea.jp/>

[3] izumi.coop

https://www.izumi.coop/safeproduct/food_safety/pdf/basic/202411_126.pdf

[4][8] AI in Corporate Wellness: 15 Ways AI is Revolutionizing Wellness

<https://www.wellsteps.com/blog/2025/03/25/ai-in-corporate-wellness/>

[11] How AI-personalized employee wellness is changing the game | Alight

<https://www.alight.com/blog/ai-personalized-employee-wellness>

[12] 品質へのこだわり | OEM ハーブティー・原料卸の BORDERLESS FARM

<https://borderless-farm.com/about/quality/>

[13] 総説植物カモミールの摂食が心身に及ぼす効果

<https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/14686/1/2005-97-95.pdf>

[14] jstage.jst.go.jp

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jcam/4/3/4_3_119/_pdf

[15] ハーブ茶摂取におけるストレス緩和効果の検証：実験室パラダイムを用いて（報告書）

https://www.tasc.or.jp/assist/archives/2015/pdf/2015_07B_yajima.pdf